

白鳥誕生

鬼多見 賢

969-3192 南会津郡只見町大字塩沢字上田 1290

これは、猪苗代湖の残留組白鳥(コハクチョウ)についての記録である。

著者は昭和40年からハクチョウの保護活動を開始している。当時元日本白鳥の会副会長の大森常三郎氏(元猪苗代湖の白鳥を守る会副会長)が全てを掌握していたが、残留羽数の記録は無い。著者は昭和59年(1984)からの記録をしていたので。この年以降の報告としたい。昭和59年に残留個体は3羽であったが、徐々に増え、平成3年(1991)には10羽を超えた。平成5年(1993)になると20羽を超すようになり、最高は平成15年(2003)の30羽であった。その後少しずつ減って平成19年(2007)に17羽となった。

猪苗代湖で交尾は3月頃から行われている。速い記録では2月にその行動が確認されている。

残留組の営巣が確認されたのは平成16年4月であった。このコハクチョウのつがいでは5月に交尾行動が確認されたが、産卵には至らなかった。それ以来毎年離れ島に巣を造り、ペットボトル(乳白色)等を交互に抱いた。今年も同じ行動が見られたが、例年7月中旬になると、巣から離れて次第に姿が見られなくなる。9月になって再び姿を現した。姿が見えないとは、巣近くでは見られなくなったということで、離れたところに生息しているので、猪苗代湖北岸で過していることには間違いないであろう。

2008年7月30日

夕方、壺陽字壺下の佐藤睦雄さんより菱沼川に子連れの白鳥が居ると連絡を受ける。彼によると、28日早朝、田の草刈りに来て見つけたということである。

7月31日

6:00に菱沼川をコハクチョウのつがい1組と幼鳥2羽が遡上していた(図1)。生後約1ヶ月半と思われる。綿羽が幼鳥の正羽に変わっており、尻部にまだ綿羽が残っていた。このつがいは平成16年に著者が確認していた個体とは全く別な個体であった。雛が誕生したのは、菱沼川河口猪苗代町大字金田前浜地内であろう。

8月1日

特に異状なし。6：30頃になると、湖方面に下降していく。これは見つけた時からそうであったらしい。

8月5日

5：30、姿が見えないので、上流まで見に行き、河口から約1.5m上流で確認。その後雨が降り出し、雨足が強くなり、河口に急いで下降した。

関都字関脇の鈴木和子さんの話では、平成14年(6年前)から夏になるとこの川で白鳥1羽を見ていた。平成19年2羽になった。

平成20年(2008)7月26日、朝仕事に来て、幼鳥を連れて白鳥をみつけた。午後には雨が上がり、17：00頃に確認。上流約1km付近で川の土手の窪みに4羽を確認。これを見ると、だいぶ慣れてきた様子が伺える。



図1. 2008年7月31日のコハクチョウ親子.



図2. 2008年8月20日のコハクチョウ親子.

初め佐藤さんがパンを与えた時点では寄ってきたが、他の人が来ると上流もしくは下流に移動した。

31日、私が呼んだら直ぐに寄ってきたので、前から猪苗代湖で怪我のため帰れない個体であった。雄雌共に右羽を痛めている。特に雄と思われる個体の右羽は痛々しい。この翼の怪我の状況からして、以前から確認していた個体のようだ。

8月7日

夜に佐藤さんより成鳥1羽が襲われて居ないと連絡あった。8日の朝に確認したところ、少し羽毛がちらばっている程度だったので、下流に行ってみたところ、河口から少し上がった人眼のつかないところで4羽を確認した。怪我の具合は大丈夫であった。

お盆ころから上流約1km付近の右岸(草むら：草が伸びて高くなってきた)で休んでいることが多くなった。

8月20日

子はかなり大きくなっていた(図2)。

9月4日

小雨、9:30、もう飛行してもおかしくない体身になっていた(図3)。8月中旬ころから河川の土手に陣取り、ほとんど一日中4羽一か所に居るようだ。夜は湖に戻っていると地元の話であった。

9月9日

晴、2~3日前から川を上ってこなくなったと連絡が入る。河口で漁業を営んでいる



図3. 2008年9月4日のコハクチョウ親子。

大字金田字金曲の薄政男さんに訪ねたところ、春から7月下旬まで漁をしていたので船を出していた。この為川には上ってこなかった。

9月に入ってから船を出して漁を始めたので、白鳥は川を上らなくなったと言う。そこで薄さんをお願いして、河口まで船を出してもらおう。

薄さんが初めてコハクチョウの雛を見たのは、6月上旬だったと言う。灰色したとっても可愛い雛で、親の後を泳いでいたと言う。

河口の状況をここで説明しておきたい。川は直接湖に流れ込んでいるのではなく、上流から左側は観光地になっていて、ホテルや売店が点在している。その為河口の砂を重機で掘削し、入り江にして船の待機場所にしている。左側は奥行き深いヨシ谷

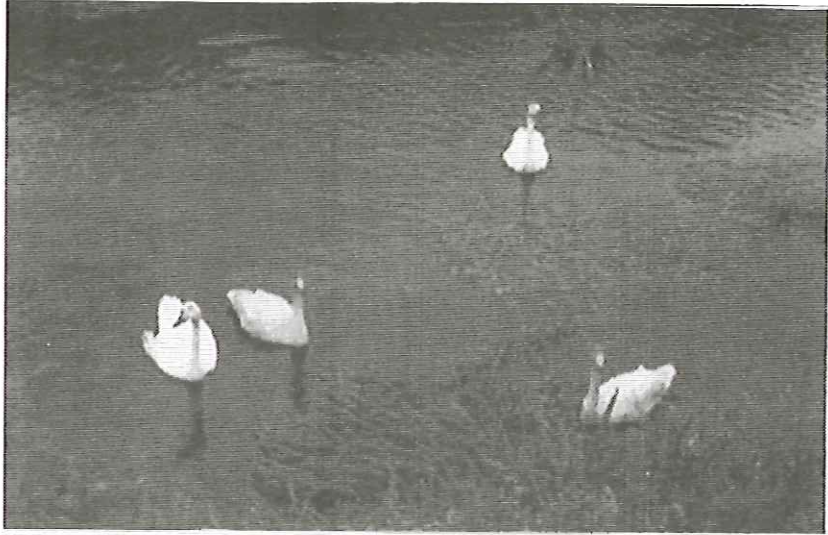


図4. 2008年9月18日のコハクチョウ親子.

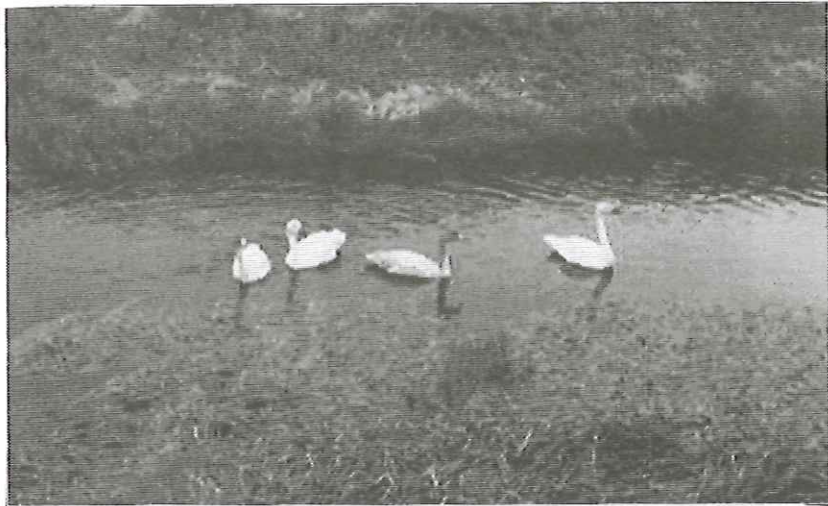


図5. 2008年9月30日のコハクチョウ親子.

地となっているが、浅い入り江になっていて魚の産卵場所ともなっている為に、薄さんの漁場として営まれている場所である。

入り江の奥に白鳥の成鳥2羽と幼鳥2羽を確認できた。離れた場所から観察をしていたら、ゆっくりとヨシの中に姿を隠した。おそらくその辺が営巣場所であろう。

9月18日

2~3日前からまた河川を上ってきていた(図4)。薄さんに問い合わせたところ、腰が痛くて漁に行けないのでと言っていた。

9月30日

河川上流に4羽(図5)。

10月10日(曇り)

いつもの場所に居ない。佐藤さんと一緒に呼んだが見当たらない。

志田浜(近くの観光地で餌付けを行っている)に行ってみたら、ホテルの前に4羽が泳いでいた(図6)。

自然界の季節や気候を生物的時計で仲間が移動してくる季節をキャッチし、群れをつくる為に移動したのだろうと想像される。動物の習性は人間には計り知れない奥深いものがある事を考えさせられることが伺える。

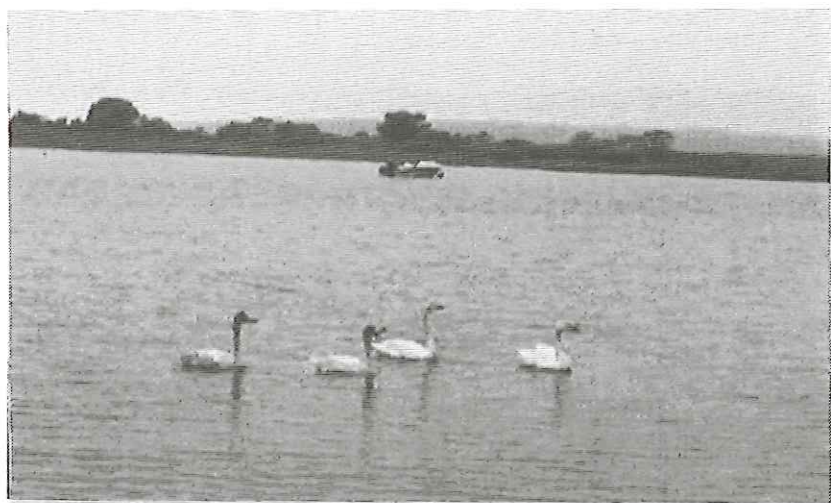


図6. 2008年10月10日のコハクチョウ親子。

中国天津で確認されたロシアレナデルタで 標識したコハクチョウ(首輪標識赤 226C)

神谷 要

(財)中海水鳥国際交流基金財団, 683-0855 米子市彦名新田 665

コハクチョウ (*Cygnus columbianus*) は北極海沿岸部で繁殖し、ロシアのタイミール半島を境に西の個体群はヨーロッパ、東の個体群はアジアで越冬するといわれている。しかしながら、ロシア極東のコハクチョウの繁殖地における首輪標識の調査は、チャウン湾において行われたのみであった (Kondratiev 1894)。そこで、1999年よりウラジミール・ポズドニャコフ博士 (レナ・ノルデンスキオルド生物学研究所) が、レナデルタにおいて首輪標識によるコハクチョウの渡り調査を始めた (Pozudnyakov 2001)。この調査において、すでに中国ポーヤン湖への移動が報告されている (Jian-Dong 2002、ポツドニャコフ 2003)。今回、新たに中国天津市の北大港ダム保護区で首輪226C (赤・白文字) が見つかったとの連絡をもらった。このコハクチョウは、私どもが協力して2001年にレナデルタで標識したコハクチョウ5羽のうち1羽である (神谷・ポズドニャ

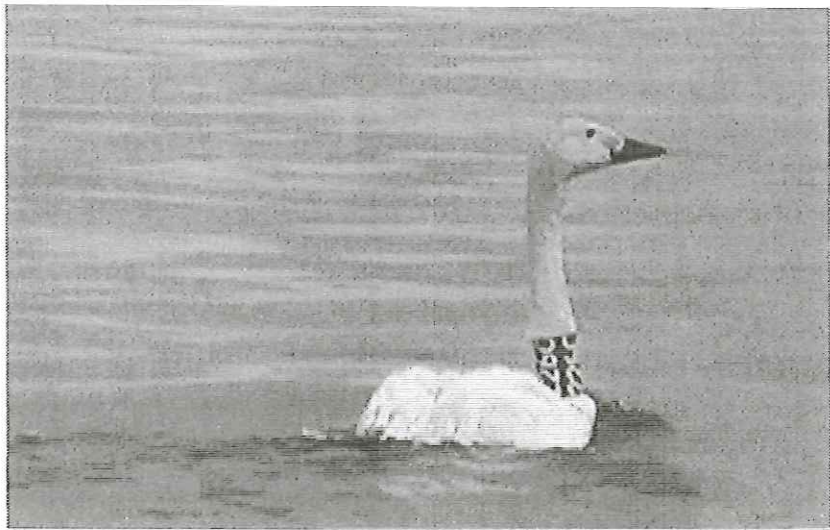


図1. レナデルタで放鳥時の226C (2001年8月14日)

Kaname KAMIYA, A report of marked tundra swan (*Cygnus columbianus*) born in Beidagang Wetland Natural Reserve, Lena Delta, Russia, in Tinjing, China.